

# 文化財ニュース

No. 42

発行 加古川市教育委員会 加古川市加古川町北在家23-1  
 編集 生涯学習推進室 電話 24-1151(代表)  
 27-9349(直通)

## 本岡家住宅(県指定文化財)を移築

### 八幡町から少年自然の家へ

県指定文化財「本岡家住宅」が、八幡町から平荘湖畔の少年自然の家の敷地内に、このほど移築復元されました。

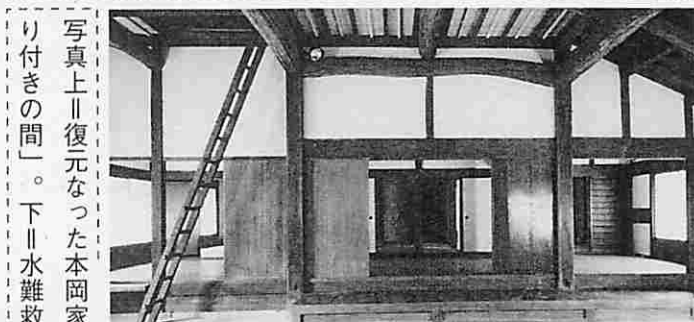
◆  
 本岡家住宅は、棟札の記述により元禄7年(1694年)、本岡嘉平治の時に船町の大工八左衛門が建築したことが明らかな大型の民家です。

平成6年まで住宅は八幡町下村にありましたが、7年に本岡篤信氏から市に寄贈していただき、解体調査を行い、少年自然の家野外活動センターに敷地造成した後、10年に元禄時代の形に修理復元しました。総事業費は1億4500万円を要しました。

復元された住宅は、奥の下屋(げや)部分を取り入れて田の字型の

4間に2間加えた6部屋と大きくなっていることや、建物の土間は広く作られています。これは代々庄屋を務めてきた本岡家の歴史を物語っています。また居室内部の壁は二段の貫(ぬき)を見せており、元禄時代の粋を表現しています。

奥の間は最上の間として、この部屋だけに畳が敷かれていました。また床が2つ、同じ形で並んでいます。仏壇は、解体調査した結果、中納戸に突き出し北から南を向くように作られていたことが分かりました。これは他の元禄期の民家にも見ることができます。そして神の間に小さな縁台が付くなどの特徴があります。

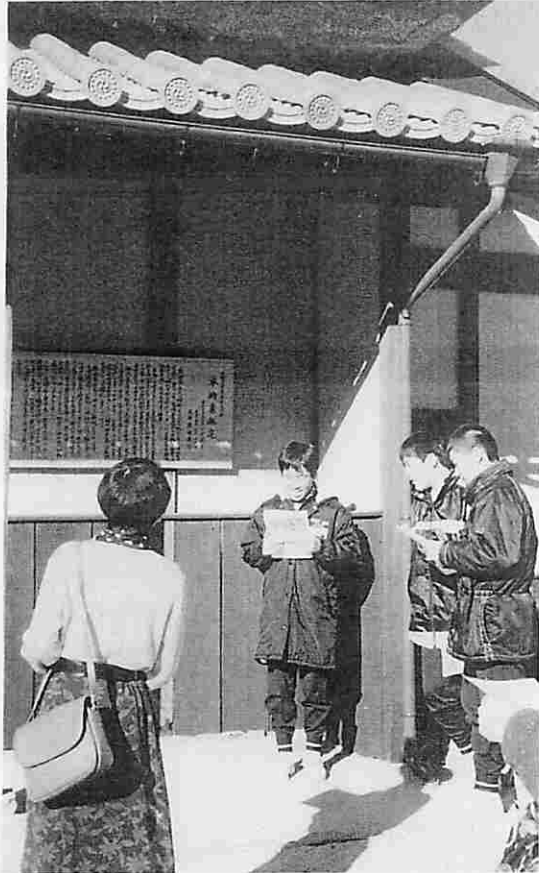


写真上||復元なった本岡家住宅。中||土間から見た「寄り付きの間」。下||水難救助の「水防飛来船」。

この本岡家住宅は、建築年代が明確で、兵庫県内のみならず西日本の民家建築を考える上で形式の基準となる文化財です。

敷地には、池尻町内会が所有していた救助船「水防飛来船」を保存しています。加古川のはらん時に、救助のために活躍した舟です。加古川の水防の歴史を語るものとして、市に寄贈されました。

## 中学生が初のトライやる 本岡家と文化センターで



加古川市で初のトライやるウィークが、市内の中学校で十一月に一齐に実施されました。  
本岡家住宅では両荘中学生五名が五日間、見学者案内や、平荘湖周囲の古墳清掃に挑戦しました。見学者の前で説明をするのは難しかったけれど、皆で分擔し



て説明できました。||写真右上と左  
加古川総合文化センター作業室では、平岡中学生十三名が三日間、行者塚古墳から出土した埴輪の接合、復元作業に挑戦しました。なかなか破片がくっつかなくて大変だったけれど、皆で協力してくっつけることができました。||写真右下

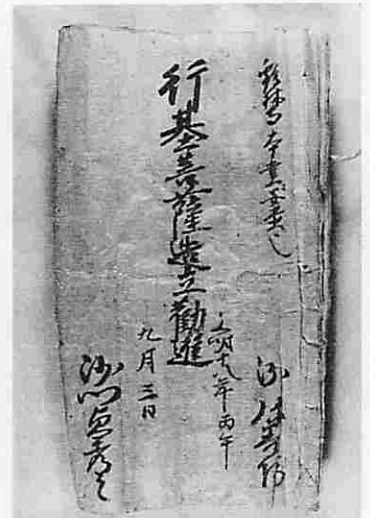


平成10年度市指定文化財に

### 「行基菩薩坐像 付勸進帳」

彫刻 高さ五十一・五cm

鶴林寺所蔵(代表住職・幹栄盛)



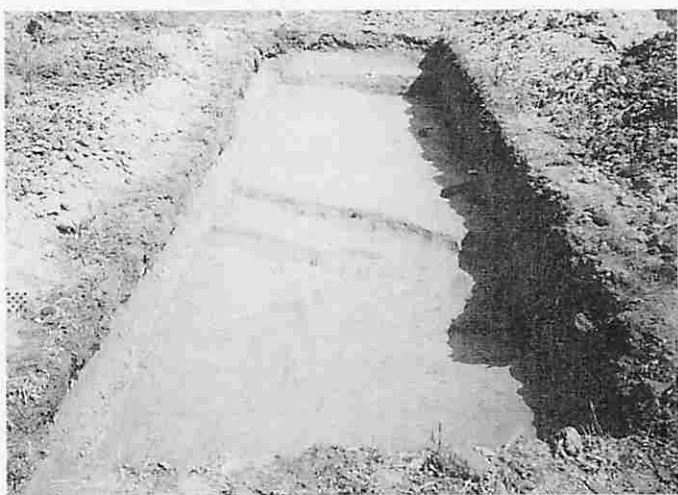
鶴林寺所蔵の「行基菩薩坐像 付勸進帳」が平成11年1月、市指定文化財に選ばれました。

同坐像は阪神淡路大震災後の調査で像の首が外れており、頭部内から勸進帳と墨書が見つかりました。

像は法衣の上から袈裟(けさ)を掛けて畳の上で結跏趺坐(けっかふざ)し、腹前で禪定印を結んでいます。ヒノキ材、寄せ木造、玉眼嵌入(ぎょくがんかんにゅう)、彩色仕上げで、四材矧です。

特徴としては、頭骨が出ており、目鼻は大振り、耳をとがらせ脛(まぶた)の下や唇の下を深く彫り込んだ個性的な彫刻です。

勸進帳からは、文明18年(1486年)に勸進が始まり、天文3年(1534年)に完成したことが分かり、勸進の完成までの過程が推し量れる数少ない例で、行基の一異形像としても貴重です。(写真左=行基菩薩坐像。右=行基像の頭部からみつかった勸進帳)



写真左上=弥生時代後期の大型竪穴住居跡。  
 右上=奈良時代の掘立柱建物跡柱穴。  
 右下=古墳時代の溝と土壘。

面の形は隅円六角形を呈していました。また、ベッド状遺構と呼ばれる高床部を周囲に巡らせていました。支柱穴は4本発見されましたが、全体では6本になると考えられます。そして、住居跡中央部からは周囲に低い土手を巡らせた炉の跡が発見されました。内部からは焼け土などが出土しました。床面上には全体的焼けた木材が多く散乱しており、いわゆる火災住居跡と考えられました。

掘立柱建物跡は奈良時代のもので、6基の柱穴を確認しました。同一個所で、数回の建て替えを行った模様です。

また、これ以外にも、弥生時代から平安時代ごろまでの土器や埴輪片、瓦片などが出土しました。

今回の調査では、弥生時代の大型竪穴住居跡を発見するという成果がありました。この住居跡は当初、開発により壊される予定でしたが、再三の協議で盛り土による保存が図られることとなりました。

## 神野遺跡の発掘調査

## 弥生後期の大型住居跡を発見

神野遺跡は神野町西条に位置する、弥生時代～平安時代の集落遺跡として知られており、かつて縄文土器も発見されています。周囲には、全長約100メートルで市内最大の前方後円墳である行者塚古墳や奈良時代前期の寺院跡である西条廃寺など多くの古代遺跡が分布しています。

今回、この遺跡の想定範囲内に神野中部地区ほ場整備事業が計画されたため、平成10年6月1日から7月21日まで、範囲確認のための発掘調査を実施しました。

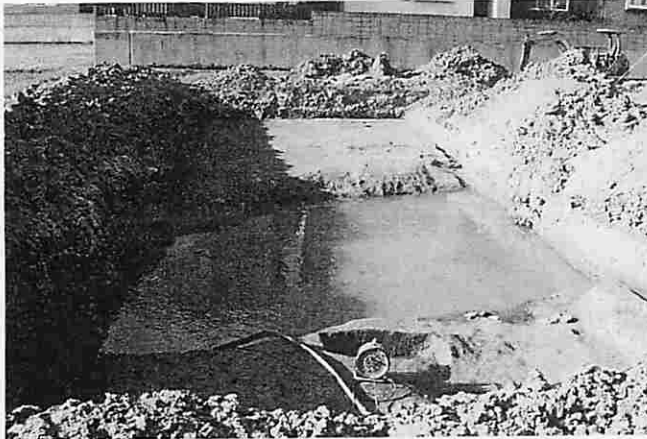
調査は2×2メートルの試掘坑を35か所設定して行いました。その結果、弥生時代の直径約10.5メートルの大型竪穴住居跡と奈良時代の掘立柱建物跡の柱穴、古墳時代の土壘や溝などが発見されました。

竪穴住居跡は弥生時代後期のもので、平



# 木棺墓や大溝など検出

## 溝之口遺跡の発掘調査



写真は奈良時代の大溝。

溝之口遺跡は、加古川町美乃利にある弥生～平安時代の集落跡です。今回の調査は個人住宅の建設によるもので、平成10年7月30日から12月10日まで実施しました。

発掘調査の主な成果は、弥生時代中期の木棺墓1基と奈良時代に埋没した大溝1条の発見です。木棺墓は、長辺約1.2メートル、短辺約0.5メートルの長方形をしており、人骨はすでに腐って無くなっていましたが、他の類例などから墓と判断しました。

大溝は幅6メートル、深さ0.6メートルの規模で、土師器、須恵器などの土器や木製品、植物の種子などが出土しました。発見された木製品は、藁(わら)などを叩く横槌1個、俵編みの時などに使うオモリである木錘1個などのほか、板片や杭など出土しました。調査地はこれまで遺跡の東端にあたると思われていましたが、今回の調査結果によって、溝之口遺跡の範囲がさらに東側に広がる可能性がでてきました。

### 文化財に関心のある方



### 加古川市文化財保護協会に入会しませんか。

加古川市内には数多くの文化財があります。わたしたちの祖先の文化遺産が、社会開発と生活様式の変化にともない、消滅の危機にさらされています。保護協会は、これらの文化財(有形・無形・民俗文化財・記念物)ならびに自然風土を保護し、これらに関する研究とその知識の普及をはかり、市民文化の向上に資することを目的に、昭和51年11月13日に結成されました。そして、文化財見学会、講演会の開催、文化財説明板の設置や文化財テレホンカードの発行などを通じて文化財保護の活動を積極

的に展開しています。保護協会で加古川の文化財の再発見をしてみませんか。

会費 年間2,000円(中・高校生1,000円)

◎文化財シリーズテレホンカード配布

◎文化財見学会・文化財講座の案内

保護協会入会のお問い合わせ

加古川市教育委員会 生涯学習推進室

電話 27-9349

## 文化財シリーズテレホンカード

(各700円)



◀ 県指定史跡 西条廃寺



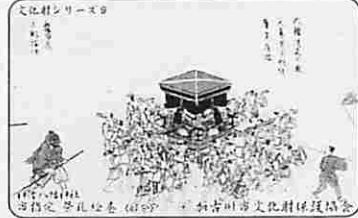
◀ 国指定史跡 行者塚古墳



▲ 神吉常楽寺 阿弥陀三尊来迎図



▲ 泊神社 三十六歌仙絵馬(紀貫之)



◀ 神吉八幡神社 祭礼絵巻

購入ご希望の方は、教育委員会生涯学習推進室(新館8階)へお立ち寄りください。